

特集

## 「社会を支える 技術・研究」

～北陸技術交流テクノフェア2025より～



北陸最大級の総合展示会「北陸技術交流テクノフェア（以下、テクノフェア）」は業種・分野・地域を超えて様々な企業・大学・研究機関が一堂に会する場であり、今年で36回目を迎える。産学官の技術連携を促進し、革新的なテクノロジーと新たなビジネスの創出を通じて、社会課題の解決や持続可能な社会の実現を目指す。

今年は10月23日(木)・24日(金)の2日間、福井県産業会館を会場に開催。209出展者がそれぞれブースを構え、自社の製品や技術を紹介する。さらに会場内では、記念講演会やセミナーの開催に加え、新製品・新技術を発表するプレゼンテーションなども予定されており、多角的に情報収集と交流が可能な機会となる。

特別企画展として「ヒトと企業を輝かせるウェルビーイングテクノロジーフェア」と「カーボンニュートラルテック展」の二つを同時開催。働く人の健康や企業の生産性向上を支えるスマートケア、防災・減災などの技術と、脱炭素社会の実現に役立つ次世代エネルギー技術などを幅広く紹介し、企業活動の持続可能性や社会的価値向上に直結する最新ソリューションを提示する。

今回の特集では今年の出展企業・団体の中から3者を取り上げ、その展示内容を紹介する。

**TECHNO FAIR 2025**

入場無料

10/23 THU 10:00-17:00 24 FRI 10:00-16:00

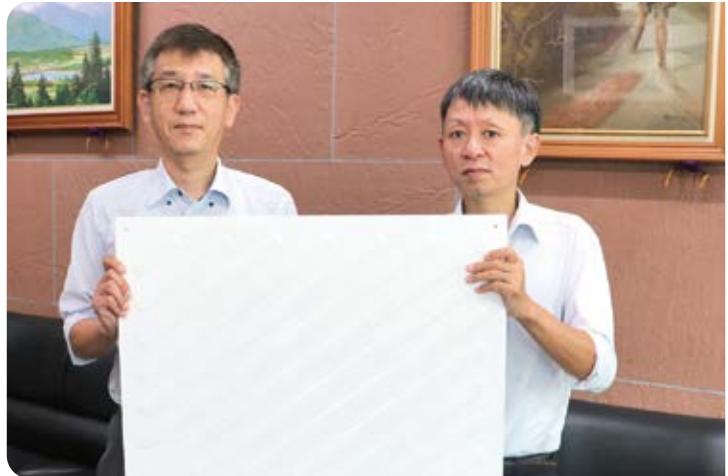
会場 福井県産業会館 福井県生活学習館 福井県中小企業産業大学校

INTERVIEW  
with MEIKO暮らしに寄り添い、  
未来を拓く

株式会社明光建商

研究部 部長 山田 展也 氏(右)

総務部 課長 高橋 英樹 氏(左)



展示予定の「フラットフェース<sup>®</sup>」は、倉庫や工場の屋根で一般的に使われる山型の折板屋根に平らに敷設する商品だ。折板屋根は強度が高く、低価格である一方、熱(遮熱性や断熱性に劣る)、錆、音、結露発生など様々な課題がある。フラットフェース<sup>®</sup>は、こうした折板屋根の課題を解決し、さらに屋根上が平らになつて得られる新スペースを有効活用できる点が特長である。「一石十鳥」を謳う同製品のメリットは、防錆、結露防止、遮音など多岐にわたる。遮熱・断熱効果により今年6月から義務化された熱中症対策としてもニーズが増えているほか、空調の使用量を削減できるため、カーボンニュートラルにも貢献する。

さらに、防災の観点からも導入が検討されている。南海トラフ地震で被害が想定される沿岸部など、津波リスクの高い地域では、この商品を敷設する

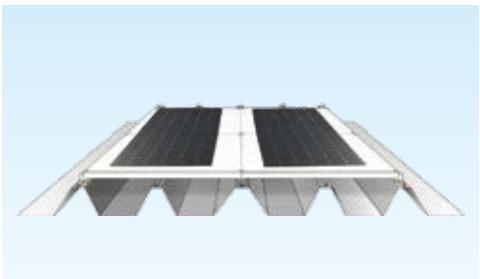
「石十鳥」屋根の価値を  
高める多機能ソリューション

展示予定の「フラットフェース<sup>®</sup>」は、倉庫や工場の屋根で一般的に使われる山型の折板屋根に平らに敷設する商品だ。折板屋根は強度が高く、低価格である一方、熱(遮熱性や断熱性に劣る)、錆、音、結露発生など様々な課題がある。

(株)明光建商は防水工事業で県内シェア50%超を誇るほか、省エネ・環境製品の提供にも注力している。テクノフェアで展示予定の「フラットフェース<sup>®</sup>」について、開発担当者で研究部部長の山田展也氏と総務部課長の高橋英樹氏に話をうかがった。

ことで、屋上での歩行が可能となり、避難場所として活用することが可能だ。加えて、太陽光パネルを設置すれば非常用電源も確保できる。

## 創業50年の技術が描く次の50年

フラットフェース<sup>®</sup>十フレキシブル太陽光パネルの複合システム

屋根の耐久性向上にとどまらず、カーボンニュートラルや防災といった社会的メリットも追求した同社の製品開発の根底には、「技術が暮らしに寄り添い、その先の未来を切り拓く」というコンセプトがある。創業50年を迎え、来たる50年に向けて、災害など変化する環境に適応した製品の開発に意欲を見せる山田氏と高橋氏。テクノフェアへの出展は、従来の「防水工事」のイメージに加え、環境配慮製品をアピールし、新たな企業イメージ創造の一端を担う。

## 変革を支える経営基盤の強化

～中長期視点でのGDP+無形資産～

講師 旭化成株式会社 取締役会長 小堀 秀毅 氏

令和7年 10月24日(金) 13:30～15:00

会場／福井県生活学習館 1階 多目的ホール  
会場定員／400名北陸技術交流  
テクノフェア 2025 記念講演会受講料  
無料こちらから  
お申し込み  
いただけます。

## 福井発!冬の交通を支える

### オンリーワン技術

山田技研株式会社

営業部 技術営業 中山 隆之 氏(右)

営業・情報部 企画開発課長 徳永 透 氏(左)



GPSと連動し走行場所の平常時の状況を映し出す。  
マンホールには赤い警告が出されている。

山田技研(株)は、道路の雪氷対策製品をはじめ、河川の水位計システムなど、交通インフラを支える製品を手掛ける企業で、テクノフェアには初回から連続で出展している。今回の展示内容やこれまでの出展成果について営業部の中山隆之氏と営業・情報部の徳永透氏に話をうかがった。

#### 雪氷を最適に解決

今回の出展では除雪車の運転席に設置して、積雪で見えなくなる道路の平常時の状況を確認できるタブレットの紹介を予定している。路肩やマンホールの様子を映し出し、警告することで、破損防止に貢献。さらに、迅速な対応

が求められる除雪において、応援除雪で初めて走行する道路でも、スマートスカイアンし、積雪の深さや路面温度などを数値化する「路面性状センサ」も展示予定だ。得られたデータはロードヒーティングの効率化など、雪氷対策を最適化するために活用される。

同社は、開発から製造まで一貫して対応するオンリーワンの技術を誇り、性能の向上や軽量化に向けた改良を行っている。

#### 知つてほしい、 身近にある技術の力

「福井にこんな企業があると知つてほしい」という思いから同社は毎年出展を続けている。同社が扱うのは一般には馴染みの少ない製品だが、多くの人が来場するテクノフェアでは、直接技術について詳しく説明することができ、興味を持つてもらつきつかけになっているという。さらに、展示会での説明を通じて自分たちがどんな思いでどんな製品を作っているのかを再認識する機会にもつながっている。

中山氏と徳永氏は「交通を支える役割を、身近な福井の会社が担っていることを知つてもらいたい」と出展への意欲を語った。

#### 特別企画展

## ヒトと企業を輝かせる ウェルビーイングテクノロジー展

個人の生活の質を高めるだけでなく、企業の生産性向上や社会の持続可能な発展に寄与する技術やソリューションを紹介。健康経営、環境対応、リスクマネジメントなど、様々な分野から最新技術を結集させ、未来の可能性を探るとともに、新たな価値創造やイノベーションのヒントを提供します。

■技術例:スマートケア、次世代医療技術、防災・減災技術など

■会場 福井県産業会館 1号館

北陸技術交流テクノフェア 2025

## カーボン ニュートラルテック展

再生可能エネルギーやカーボンニュートラル対応製品、環境配慮型資材・機器など、省エネルギーや脱炭素に寄与する技術・ソリューションを紹介。持続可能な未来に向けた実践的な課題解決や価値づくりのきっかけを提供します。

■技術例:次世代エネルギー、環境配慮型資材など

■会場 福井県産業会館2号館



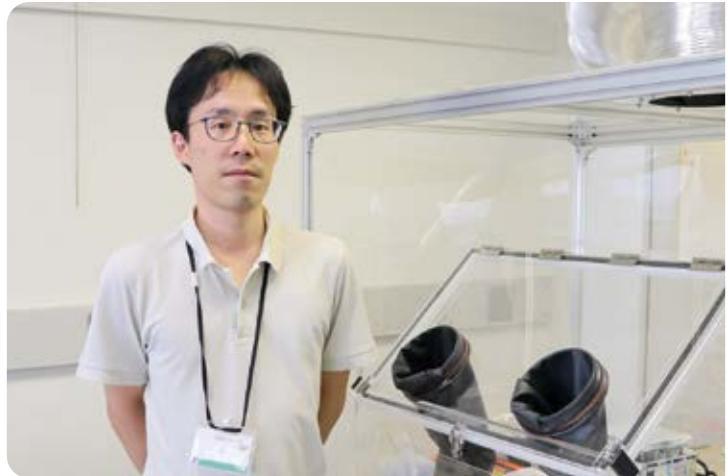


INTERVIEW  
with Industrial Technology Center  
of Fukui Prefecture

产学官連携による  
新製品開発の最前線

福井県工業技術センター

新産業創出研究部 研究員 辻 堅宏 氏



現在主流の太陽電池の9割以上はシリコン製で、重量があり硬いため、設置場所は屋根などに限られる。一方、ペロブスカイト太陽電池は、軽量かつ薄型で、塗布・印刷による製造が可能だ。日本が掲げる2050年カーボンニュートラル実現のため、再生可能エネルギーの拡大が急務となる中、従来の太陽電池が抱える設置場所の制約を克服できる点で大きな期待が寄せられている。その汎用性の高さから、服や靴といったウェアラブル製品への実装も期待される。さらに、発電効率が高く、室内の蛍光灯でも発電できるため、商品のバーコード代わりとなる電子棚札に応用されている。

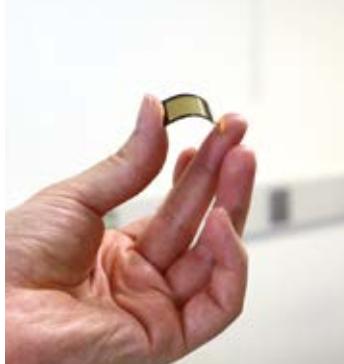
ペロブスカイト太陽電池は、溶剤を滴下した基板を回転させて均一に必要な量を塗布し、複数の層を重ねること

で作製される。同センターでは約3年前からこの研究を開始しており、今後も発電効率の向上や繊維への実装に向けた検証を続けていく。

福井県工業技術センターは、研究開発・技術支援・技術移転を柱に事業を展開する県内産業の総合的な試験研究機関だ。学生への教育普及や企業との共同開発にも力を入れ、地域と産業を幅広くつなぐ多機能拠点としての役割を担っている。今回のテクノフェアでは県内に先駆けて研究を進める「ペロブスカイト太陽電池」を展示予定。担当者の辻堅宏氏に話をうかがった。

ペラペラのフィルムで太陽光発電

地域産業の研究開発を加速！



フィルム基板に溶剤を滴下して作製したペロブスカイト太陽電池

同センターでは約50名の研究員が技術革新を目指して日々研究に取り組んでおり、テクノフェアでは毎年新たな研究や技術を展示している。過去に展示した研究は、県内企業への技術移転が進められ、製品化に向けて動き出している。研究成果の知的財産権を取得し、企業への技術移転を通じて製品開発を支援することも、同センターの主要なミッションの一つだ。

ベースでは研究の展示に加え、効率化や新製品開発に向けた技術的な相談にも対応。辻氏は、「県内産業の発展に向けて様々な分野で特徴ある研究を進めている。気軽に相談を寄せて欲しい」と意気込みを語った。

取り組みは地域産業の発展や社会課題の解決にも大きく寄与している。

テクノフェアでは今回紹介した3者以外にも、多様な企業・団体が最新の製品技術を紹介する。また、記念講演では旭化成株の取締役会長小堀秀毅氏を迎え、持続的な企業価値向上など同社が取り組む経営基盤の強化について学ぶことができる。

人手不足問題や環境配慮が求められる現代において、テクノロジーは生産性向上、企業価値向上など、あらゆる面で欠かせない存在である。テクノフェアのような展示会は情報収集や新しい取り組みを始める契機となる重要な機会だ。未だの当たり前を支える技術や研究に触れ、その可能性を直接確認するとともに、自社の課題解決や新たな事業展開のためにもぜひご来場いただきたい。

テクノロジーの力で変革を

技術交流テクノフェア問い合わせ先  
(産業技術・DX推進課)

0776・33・8252